



### 高樹 のぶ子

(作家)

- 古事記(日本文学全集01)  
池澤夏樹訳(河出書房新社・2160円)
- 詩文往還—戦後作家の中国体験  
張競著(日本経済新聞出版社・2808円)
- 憐貧困大国アメリカ  
堤未果著(岩波新書・821円)

### 張 競

(明治大教授・比較文化)

- 現代日本人の中国像  
馬場公彦著(新曜社・4536円)
- 中国の「新劇」と日本—「文明戯」の研究  
飯塚容著(中央大学出版部・2916円)
- 中国絵画入門  
宇佐美文理著(岩波新書・907円)

### 辻原 登

(作家)

- 世界でいちばん美しい  
藤谷治著(小学館・1620円)
- ある文人学者の肖像—評伝・富士川英郎  
富士川義之著(新書館・3888円)
- 小林秀雄とその戦争の時—『ドストエフスキイの文学』の空白  
山城むつみ著(新潮社・2484円)

### 中島 京子

(作家)

- プロット・アゲンスト・アメリカ  
フィリップ・ロス著、柴田元幸訳  
(集英社・2376円)
- NOヘイト!—出版の製造者責任を考える  
ヘイトスピーチと排外主義に加担しない  
出版関係者の会編 (ころから・972円)
- 愉快  
閻連科著、谷川毅訳  
(河出書房新社・3888円)

先週に続き、書評執筆者が選ぶ2014年「この3冊」をお届けします。最も多くの評者が挙げたのは、トマ・ピケティ著『21世紀の資本』と星野智幸著『夜は終わらない』でした。以下、池澤夏樹訳『古事記』▽尾崎真理子著『ひみつの王国』▽金井美恵子著『お勝玉田健一』▽富士川義之著『ある文人学者の肖像』▽松浦寿輝著『地方消滅』▽松浦寿輝著『科学者の楽園』をつ

『古事記』は漢文で書かれた歴史書。三浦佑之氏の解説によると、長く音声として語り継がれてきたものが「倭文」化した変体漢文で記述されたのだとか。原文はかななり大変そう。いまこうして、読みやすい現代の言葉で神々の人間くさい物語を愉しめることを幸せだと思ふ。我々はどんな神話を持っているか、世界中に在る神話と何が違い、どこが共通しているのか、知っておきたいと思ふ。

作家たちは中国をどう表現してきたか。新聞の紙面からは読み取れない「作家的中国」を知る一冊。中国の何に関心を持ったかは、作家論であると同時に、その時代をあらわしている。今必要は一冊。戦後アメリカの繁栄にあこがれて追いついてきた日本。アメリカの負の面というより現実の報告を読むと、こんな風にはなりた

馬場公彦は気が遠くなるような膨大な資料を精査し、論壇における中国論の変遷を明らかにした。前著の続編として、本書は日中復交から天皇訪中までの時期を扱っており、日中関係が悪化しているいまこそ読むべき力作である。

飯塚容は明治大正期の日中演劇の交流をめぐって、過去の空に消えた言葉や舞台で演じられた劇の様子を追い続けてきた。ほとんど忘れられた分野だが、著者の地道な調査によって、多くのことがわかるようになり、これまで知られていない事実がいくつも判明した。宇佐美文理は「気」という捉えどころのないキーワードを使いながら、中国絵画の展開をわかりやすく紹介している。形象にとどまらず、画家の内なる自然に目が向けられ、視覚的表象と人間精神との関係性に

藤谷治は意欲、怪物的才能を露わにし始めた。この作品は、技にすぐれ、深さを備え、さらにタイトルに負けず美しい。彼の小説はいつも読者に開かれている。

専門を越えて文学の普遍に参画する稀有な存在、文人学者。独文学者富士川英郎はまさにその呼称にふさわしかった。著者はその息子で、英文学者富士川義之である。やはり父に劣らぬ文人学者。正しく知的であることの極意が、父を描く子の視点によって、あたたかく、優雅に開陳される。先に『ドストエフスキー』でドストエフスキー作品に真向うから取り組んだ山城むつみが、小林秀雄のドストエフスキーから戦中(戦場)、戦後の言語空間へと切り込む。批評健在の揺るぎない証明!他に『シム・スマイリーの跳び蛙』マーク・トウェイン傑作選(柴田元幸編訳(新

ここ数年で表面化したヘイトスピーチ。特定の人種や民族を攻撃する言説が、ネット上だけでなく公道で叫ばれるように。そんな状況下で読む「もし第二次大戦期のアメリカ大統領が反ユダヤ主義者だったら」という、ロスの壮大な仮想歴史小説には考えさせられてしまった。追い詰められていく家族の物語が皮膚感覚で迫ってきた。

次の一冊は、ヘイト本が書店のコーナーを埋めていることを憂えた出版人有志が出した。タフロイド紙の見出しなどで状況を解説しつつ、出版社の社員や書店員が現状をどう考えているか、法整備の是非と課題などをまとめて読みかたがある。現代中国を鋭く批判する作家から届いた長編は、中国ばかりでなく全世界を呑み込む「金」の支配に狂わされる人間の悲しさを滑稽と絶望を描きつつ、暗闇の中の光に